

日本書紀傳 十五卷 五

和書
一〇五二二號

三十九

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (48)	
函號	85	1



文庫印

圖書印

古政直
文庫

内二六八三號

思へば此ハ三女五男神共小由有る可一或書小
 此社山代郷伊弉奈枳明神東瀑布の下小在り云々
 バ此真名井も掘井を云ふハ非で瀧下の川小就て云
 者あり又伊勢神宮少右の丹後の比沼麻奈為神社
 より移せる天忍石乃長井を忍穂井云ハ忍石井
 云事ありめも此の御誓小依て成坐る天忍穂耳尊
 小由緒有げらる事をも思合す可一
 一ハ小在りども打任せて其名を云時ハ天安河あり
 此を汲用あり其用小就て云ハ天真名井云々
 天安河の内小在り名〇濯ハ古事記小振滌フリ有ハ
 糸少て廣くざりあり
 依て訓未あり此を第二一書小浮寄ウケヨシと有り下章第三

〇日本書紀傳十五

〇二百四

一書ハ濯浮ト有リ此等を合せて思ふハ振滌ハ出
雲神賀詞ハ須須伎振遠止美乃水乃ト有ハ後釋ハ
滌振ハ振滌ト云ハ同ト遠止美ハ淀ニシテ水ノ滄
乃ハ溜水ノ所を云ふハ天安河の内ニシテ天真名井
ト云フ可キ水ノ淀ニシテ振滌させ給ヘラあり若テ
浮寄又濯浮ト有ハ水上ハ浮べて振動ハ取寄給ヘ
ラシテ衣ふなどを洗濯ガ如ク物為させ御在ハ坐シ
乃ハ釵ハ在れ玉ハ在れ水上ハ浮ぶハ物を浮べ給
ハ又其二共ハ嚙モ碎けモ為ハ物多クと咀嚙
セ御在ハ坐シるハ奇異多ク御所為共多クと尋常

の小智を以て左右ハ申ハ怪ハむ可ハ非ハ
水洗濯濁氣ト説給ヘラ真水ノ事ハ右ハ辨ヘラ
如ハ洗れども此ハ洗濯濁氣ト有ハ然ラ意ハ非ハ
口ハ含給ヘラシテ
洗濯給ヘラあり
○詰然咀嚙此云佐我弥尔加武
有ハ古事記ハ佐賀美途迦美而ト有ハ此を第一
書ハ食ト有ハ第三書ハ釵ハ食ト云ハ瓊ハ
ハ含ト云ハ第二書ハ釵ハ嚙断ト有ハ下章第
三書ハ二共ハ嚙ト見えハ例ハ真
詰ハ可ハ万葉八五十四ハ大口能ハ真神ノ原十三
ハ大口乃ハ真神ノ原ト有ハ狼ノ事ハ真神ハ真
を云係ナリ者あり此ハ佐我美ト真賀美ト等

この事を曉る可し釋述義小齧然齒堅之聲也咀嚼ニ也
こ見え名義抄小齧齧骨聲と注され玉篇小齧齧堅聲
こも注せる如く俗小加理ニこ齧むを云ふなり實小
劍をも瓊をも齧碎らせさせ給へり一音の高く響き
聞え渡りけむ事想像り奉る可くある有ける 記傳此
齧を約めて佐賀美ニハ云ふなり志加を切れば佐なり
美を略く堅物を齧めバ口の感む謂ありと云れられ
こも其ハ生薑ふごを食へバ齧の感む事ハ有れば
其ハ味の辛酸き物ころ有けれ劍瓊めて口中の感
云事ハ且ても有る事あり諸名義抄小齧を波自
斯又志賀牟と有れば齧の事小云るなり然れば佐賀
美ニ志賀牟ハ ハ同 ○吹棄ハ浮枳于都屢ニ訓を注された
り第二一書小吹出有る如く齧碎さ給へる御劍を

御口裏小含ませ御在り坐て御氣噴を吹出し棄させ
給へるなり上章第六一書小吹撥之氣化為神と有る
ごハ口中小物無くして吐出るるれば此ハ撥あるを
此ハ物有て吐出るるれば棄と云て此言カ有て聞ゆ
るる伊弉諾大神の御身小着給へる物を投棄給へ
りて海中小出入して御子等を ○氣噴之ハ伊浮岐能
吹生坐るる此ニ同ト例あり
こ訓を註されたるが如し古事記ハハ氣吹と書れた
り備此ハ素戔嗚尊善心小坐さば其御方小男御子生
坐べくして其御對小ハ此方小女御子生出させ御
在り坐せと誓ひて已尊の疑所思せり御心のトを

も定めさせ給ふむ又其反對して若日神の疑所思者
すが如く實に惡心御在り坐さば忽ち其勢と消せさせ誓ひ給ひ
むと水を前ふして相共にお誓約を立給へるが此事小
因れりと所見て氣噴をして物を壓退る事今も常小
爲る事あり己小海宮遊行章第八一書小火折尊歸來
具遵神教至乃兄鈞之日弟居濱而嘯之時迅風忽起兄
則溺苦云々於是弟嘯已停而風亦還息故兄知弟德欲
自伏辜を有るごハ誓ひハ非れども氣噴小物を壓勝
給へる事の一證あり又立復めて上章第十一書御濯
除の所小吹生大地海原之諸神矣と有る穢惡小壓勝

て正しき神を生得給へる事此の例小異るごり又大
被詞小連開都比咩止云神持可は吞は如此は可は吞
波氣吹戸坐須氣吹戸主止云神根國底之國は氣吹放
牟は有る右の古傳小本着たる者あり所以小六月晦
日御贖儀小荒世和世小御息を懸させ給へるごりも
皆神世の遺風あり者あり此等の事皆古の禁方あり
其驗違はざる事今猶神世の如し纂疏ハ氣謂ハ口氣噴
謂ハ鼻氣と有れども
氣何の事も無く氣を吹出すを氣吹噴ハ云々あり
此字ハ通證小引る文選長笛賦ハ氣噴効以布覆と有
る者あり○狹霧ハ上章第六一書小所見たる朝霧
小同一傳十三小云り偕氣息を霧と形容れり類例ハ

公記陸風上記多野都館
村名九白依武天皇為巡
東陸野都此野有金日
野上郡廣無數甚多其
從前如野都館之原此其
吹風似朝而為之也又
又

景行天皇四十年御紀小是野也麋鹿甚多氣如朝雨粉
見元又記傳七五十下小引水たる雄略天皇御紀小今於
近江來田綿蚊屋野猪鹿多有云イアクイキハ呼吸氣息似於朝霧
見元万葉五六下小大野紀利多知和多流和何那宜久
於伎蕪乃可是尔紀利多知和多流知有於伎蕪息
嘯ウツ下嘯ウツハ毛詩箋小感口而出聲也有如十五
下小君我由久海邊乃夜抒尔奇里多婆安我多知奈
氣久伊伎等之理麻勢有奈氣久ハ長息るを霧
小形容ミナシたるふり又十下和我由惠仁妹奈氣久良之風早
能宇良能於伎蔽尔奇里多奈妣家利又於伎都加是伊

亦御名謂與津島
比賣命

多久布伎勢波和伎毛故我奈氣伎能奇里尔安可麻之
母能乎ふどの類此あり 此奈氣伎能奇里ハ云ハ長息
ハ尺の歎ト云事万葉小多在ハ息を
長ク引ク時ハ数尺小及ガ如キを云リ ○田心姬命弟
三、一書小ハ田霧姬命ト作り古事記小多紀理毘賣命
ト有ト同ト事ふり御名義右の田霧の字ハ依ル時ハ
右の齧然咀嚼而吹棄氣噴之狹霧所生神ト云語小本
着テ然ル意ハ見ベク又次あり湍津姬命の御名ハ合
せ又上小濯於天真名井ト有リ弟三、一書小日神與素
彥鳴尊隔天安河而相對乃立誓約ト有ルを思合す
ハ其水ハ依テ激ル意ト見ルゆめれト此ニ説

共小良ハ一とも思へらず記傳小多紀理も多岐都も
天安河小依れる御名小やこ云れたるも然ハ有べ
くす又通證小田心姫心之本體也ふと云る説を載
たれども素より云 偕此ハ皇太神の奮稜威之雄詰發
小も是ざる者なり 稜威之噴讓、有る如く大夫の武備を設させ御在
坐一 大御心の進之極れる時小誓給いて成坐る神等
小御在一坐せば女神小ころハ御在一坐けれ御心の
進めり小雄健、御在一坐る謂る可一 大同本記小
此ニ女神を合せて須勢理姫命と有を思ふ小田心ハ
健心マケニコふる可一 姓氏録小大彦命孫彦屋主田心命、有
も彼四道將軍の一なる大彦命の孫小一有けれハ最

雄、一く健り、ふる謂るりと聞ゆ又孝元天皇七年
御紀の少彦男心命を古事記小ハ少日子建猪心命、
有も健雄心の由あり又姓氏録ニ枝部連條ふる建許
呂命を奄知造の下小建凝命、作るも健心の義ふる
可一 其ハ和名抄小大凝菜本朝式云凝海菜古留毛波
俗用心太二字云古、呂布止、有が如く許流、許、
呂、ハ同義同言ふる事上六下 小ハ己小註し、ふる
万葉二十三下 小ハ妹之心を以母カ去、里波、も有
て心ミを去、里、活りせたるも凝、同一意ふれば、
又古事記伊弉河宮段小且波之大縣主名由基理、
云人名出たるも田、由、誤れり、此の田心

又俗不物事不深
心と許流と云るも右の
意味を離れざる
者なり

この同ドさふくむも知へり
又ハ由基理ハハ意ふるふム
賣命と有ハ田心タノリの音の通へり状小思ふハ委ウ一
了其も亦一の御名小て右小云る稜威之雄誥小依て
詰りつて成出御在一坐一由るり其例ハ天孫降臨章
第五一書小是以吾田鹿葦津姫益恨作無戸室入居其
内誓之曰妾所娠若非天神之胤者必亡是天神之胤者
無所害則放火焚室其火初時明時蹠誥而出兒云二次火盛
時蹠誥出兒云三次火炎衰時蹠誥而出兒云四次避火
熱時蹠誥出兒云五有て其生坐る御子等の蹠誥び
て出坐り一を以て此の御有状とも思ふ可一神武天

皇御紀小雄誥此云鳥多鷄盧ニ註されたる一就て考
みふ多紀理ニ多祁流ニ同言一雄タケ健ツカふる義ふり
又右の時小成坐る火進命を正書小火闌降命ニ作る
其下小火闌降此云褒能須素里ニ註されたる一小古事
記ハハ火須勢理命ニ有り此小就ても此三女神を合
せて須勢理毘賣命ニ申奉るニ寔ヨク符ツク合ハる者あり
又三代實録貞觀十二年宗像大神告文小我皇大神波
掛毛畏岐大帶日姫乃彼新羅人字降伏賜時尔相共加
力倍賜天我朝字救賜比崇賜奈利而今如此尔押倫氣
色字露出事字波最是皇太神乃聞驚岐怒惠利賜倍岐
物奈利見又世小字佐宮石清水宮を行矢神持
崇く此三女神ハ一然雄健き由有神等小御
在一坐を思合可くるむ 偕此大神ハ一三女神の長女小御在

全事記小故其先所
生之神多紀理昆賣
命者坐胎於之奧
津宮之身元又

一坐セバ此古事記の共小正一き得たり第一一
書小瀛津島姫之有ハ亘一けれども其終小田心姫之
出たるハ亦名より紛いて別神之為事誤ふり又弟
二一書小嚙断瓊端云ニ化生神号市杵島姫命是居于
遠瀛者也又嚙断瓊中云ニ化生神号田心姫命是居于
中瀛者也之有ハ田心姫命之市杵島姫命之共小相換
れり傳ふて誤ふり第三一書小瀛津島姫命亦名市杵
島姫命之有て終小田霧姫命の御名の出たるハ共小
誤れり傳ふり者るの舊事紀の神祇本紀小十握劍化
坐之神号曰瀛津島姫命亦名田心姫之有て其終小瀛

津島姫命者是所居于遠瀛者此田心姫命也之見え又
地神本紀小田心姫命の御名を奉たる其下小亦名奥
津島姫命亦瀛津島姫命坐宗像奥津宮是所居于遠瀛
者也之有るを中古小集めたるハ有べけれども甚
ニ正一聞えたりける此事ハ記傳小己小誤りれ
て被記の多紀理昆賣命亦御
名謂奥津島比賣命之有を置替て市杵島比賣命亦御
名謂奥津島比賣命之為る時ハ此の諸傳之皆合ふり
之強て合さるるハ○湍津姫命古事記多岐都比賣
命之見え神祇本紀小湍津嶋姫命之記一地神本紀小
ハ高津姫神之作り然れども湍津姫命を湍津嶋姫命
之有ハ例小違へり然るハ瀛津島姫命中津島姫命邊

津島姫命と申すも、第二、一書小所見たる遠瀛中
 瀛海濱、其御在坐す地の海島あるに因て、稱奉
 る小て譬へば日神を伊勢國小齋祠るに依て伊勢太
 神と申奉るが如し、又次ある市杵島姫命も本御名ハ
 別小在て此（道中のリ）女（國）嚴島小御在坐（天孫の御為小齋坐）る御名ある事
 下小云れ、此（其）此の例小ハ非ず斯て此（多岐）田心理と
 申すも狹依と申すも湍津と申すも右小註せるが如
 く其生坐る所由小就て稱奉る御名小ハ非ぬハ其
 天上ある何處を指て湍津島と云む此ハ必情進小
 島字をバ加へたり者あり、又湍津島とハ海濱の名
 若

出雲風土記にも多岐都此を命と云ふ神名あり

然も有るを、天より降來坐る迄此神湍津ハ大袂
 小限りて御名坐ざるが如くして叶はず、詞ある落多都速川と云事も有て字書小湍急瀬也
 有が如く、水小由有る事と所見ゆ、右
 小引る舊事紀小高津姫神も有る、多岐都も多
 迦都（事あるが共高出の義ある可し其高の）も云、此言ハ傳四（六）下、小高皇產靈尊の高を
 物の伸進む義ある由委（ゆ）く云、（ゆ）如く右の田心姫
 命を多紀理と申せり、小長、異ふる所無、中少意
 味小違ひ有る可し、万葉七（八）下、小名毛伎世渡人可知
 見山川之瀧情字塞敢而有鴨十一、小言出云忌、山
 川之當都心塞耐在、水の激（シキ）小係て多岐都心と云ハ

高く進^ツり出^ルるを云を合せし思ふ可^クし然も人の上の
才智の長^{タケ}たる事をも伎藝の勝^タりたる事をも共^ニ多
岐理^キ良^リ有^リ流^ルふと云るも此^ノ同^シト但^{シテ}湍津^ハ予^ガ説^ク
ハ多岐^ノ知^ル比賣^ノこころ云^ハべけれ然^レ湍津^ニ有^リハ津
ハ之^ノ通^スふ言^ハふれと云むも一通^リハ然^ル事^ハ不^レれど
國^ノ玖琉^ノ命^ハ又^ハ彦國^ノ尊^ノ命^ハふと云^ハれ又^ハ布伎^ノと云^ハべ
きを然^レ云^ハる例^モ有^レバ此^ノ津^ハ出^ルの意^ハふる者^ハふり
備^フ此^ノ神^ノの生^ル坐^ルる次序^ハ古事記^又此^ノ第一^ノ書^共小
三女神^ノの末^ハ在^リハ甚^ニ正^シクを此^ノ正書^又第二^ノ書
第三^ノ書^共小^其中^ハ在^リハ傳^ハの誤^ルれ古事記^ハ次
市寸嶋^ハ姫^命者^坐胎^形之中^津宮^次田^寸津^比賣^命者^坐
胎^形之^邊津^宮と有^ルる次序^又第二^ノ書^小又^嚙斷^瓊瓊^尾

而吹出^ル氣^噴之中^化生^神號^湍津^姫命^是居^于海^濱者也
と有^ル小^合り神^祇本^紀小^邊津^島姫^命者^是所^居于^海濱
者^此湍^津島^姫命^也と見え又^地神^本紀^小市^杵島^姫
命^の次^小湍^津姫^命と有^テ下^小亦^名多^岐都^姫命^亦名
邊^津島^姫命^坐宗^像邊^都宮^是居^于海^濱者也と見え
る允^小當^ル事^共小^亦有^レけ^ル然^レバ三^女神^ノ長^ハ
中^ハ市^杵島^姫命^坐一^以湍^津姫^命不^渡り^給へ
る事^右小^正せるを以^テ知^ベし師^ノ古^史徴^弟三^十三
段^小己^小古^事記^小據^テ○市^杵嶋^姫命^ハ古^事記^小
右^ノ誤^共を糾^スれ^ため^也○市^杵嶋^姫命^ハ古^事記^小
市^寸嶋^比賣^命亦^御名^謂狹^依毘^賣命^と有^リ諸^右の^市
杵^嶋姫^命ハ^右一^百十^小己^小云^ルが^如く^田心^姫命

湍津姫命の例にも違へぬ古史徴ふも云はれたるが
如く右の狹依毘賣命と申するむ相並ぐせる御名も
ハ御在り坐ける偕同記小市寸島と有る下小上字を
書るハ嶋字を上聲ハ訓べき事を註されたる者あり
斯水ハ市寸島とハ訓ず姑く市寸小て切て嶋比賣命
と續云へハ上聲ハ成るなり其ハ又所以有べし其ハ嶋
字平聲ハ呼ぶ時ハ神名式ハ安藝國佐伯郡伊都伎島
神社名神大と有る其と同ト神ふれども其社と混ぶる
故ハ唱分るあり其ハ市寸けりと申すハ御職の名あり
嶋比賣命と申奉るハ唯ハ宗像の嶋ハ御在り坐す比

賣命と申す義あり豊前國宇佐郡比賣神社名神大と有
も三女神を唯ハ然申せる事傳十八トハ云を見べ
し右の如く上聲ハ云て平聲ハ云とて其義ハ異有
る事ふるが故ハ古人の音註を然るむ物為り此
りけりと思しけりハ容易故此市寸を以て御職の
名と申す事ハ第一一書ハ汝三神宣降居道中奉助天
孫而為天孫所祭也と有る後世の齋内親王又春日大
原野等社の齋女イフメなどの如く天孫を輔佐奉りて其御
為ハ神と所祭と仰給へる者あり其所祭神ハ神宮雜
例集あり皇太神の大御託言ハ三女神ミ葦原中國宇
佐島降居道中奉助天孫而為天孫所祭止詔之須勢理

△宮六
口ふも有へ一其撰
社大元社と國
常立尊と有れ
其共小由無一
其

姫乃齋奉^{留神云}、御饌都神止由居乃神字云と宣
給へる豊受大神小御在し坐を其御靈を彼島にて所
祭^{給へる}を以て然稱奉りし御職の名ふれ、ハ
云ふり此小就て又思ふ小右小引る安藝の伊都伎島
神社ハ後小三女神を宗像より勸請^{ミコト}しる社あるが其
本殿小並びて客人宮に申して長ニ後れ、せ御在し
坐さる大社有ハ元來宗像小して豊受大神を始奉り
て諸神を持所祭^{給へる}せ御在し坐ける遺制^{ナゴリ}ある可くふ
む伺奉りたりけり但其客人宮小豊受大神の御事
の聞えざるハ其大座の中小國
常立尊と申す有り其只こく伊勢外宮小其大神の
古傳を混りして國常立尊を以て御饌都神と為る誤

を受たり者と思しければ中ニ 借右の狹依毘賣命を
小面白く聞成りたる者小あむ 記傳七^{五十一}小狹依ハ眞宜^{マコト}ありと説りたるハ前後二
神の例小違へれば予ハ信ふらず故思ふ狹依ハ借
字少て正しくハ進動^{スガユリ}の義ある可し依^{ヨリ}と動^{ユリ}と相通ふ
事ハ此三女神を合せて玉依姬命と申奉れるハ第二
一書小所見たるが如く八坂^瓊之曲玉より成出^給る謂ふ
るが下章第三一書小瓊響瑤^瓊此云奴儺等母、由羅
尔と有る其如く少て玉田良姬命と申す義あり神名
式隱岐國知夫郡由良比女神社^{名神}有と頭註又一宮
記等小大己貴命嫡后須勢理姬命と有を以て玉由良

の玉を省るを知べし又周吉郡玉若酢命神社隱地郡
水若酢命神社名神大と有る玉ハ其成坐のし出自りて
右の玉あり水ハ瑞ふて麗しき由あり若酢命ハ出雲
風土記神門郡滑挾郷の下ハ和加須世理比賣命と有
る須世理を約て志と成るり此を以て此挾依の挾
進スセリの義ふる事上二百ハ云る事共を合考へて曉る可
し如此く見る時ハ田心姫命亦名田霧姫命の健心タケココロ又
健有タケアリより此市杵嶋姫命ハ進動次スロコリの湍津姫命の高出タケツ
るが次第亘く打合て甚々美好たう可し故此を以
て右の如く説奉りて唯三前大神の御印可を符奉る

のこ諸此例ハ依りバ市杵嶋姫命の市杵も巖字の意
ごも右ハ云る如く市杵ハ然る巖城の事ハ非ず
天孫の御為ハ所祭給ふ御職の名ふりバ此の例ハ
立べり故此大神の御名古事記ハ多紀理毘賣命の
下多岐都比賣命の上ハ在て三女神の中ハ在り又其
次ハ市杵嶋比賣命者坐胸形之中都宮と有り又本
朝月令ハ秦氏本系帳云正一位勳一等松尾大神御社
者筑紫胸形坐中都大神戊辰年三月三日天下坐松崎
日尾又云日と有ハ松尾神社の御事ハ注式ハ大
山咋神本社一座肩形中都大神市杵嶋姫也と云證も
有て甚愷る事ハ有て此ハ良らざる事共有り

其ハ第一一書ハ此御名見えず第二一書ハ嘯断
瓊端而吹出氣噴之中化生神号市杵島姬是居于遠瀛
者也コ有ハ田心姫命と相換れり一事上ハ註ラガ如
一瓊端を瓊中ハ遠瀛と中瀛ハ易てゴ叶不可クモ
第三一書ハ瀛津嶋姫命亦名市杵島姫命コ有ハ誤不
事上下ハ照一應てク曉ク可一然れば此三書共ハ
正一ハ傳を得ざる者あり神祇本紀ハ中津島姫命
者是所居于中島者此市杵島姫命也ト見え地神本紀
ハ市杵嶋姫命コ有て下ハ亦名佐依姫命亦云中都
島姫命坐宗像中津宮是所居于中島者也ト見えて此

ト眞音ハ相符合る者あり
此ハ就て思ふハ第一一書ハ
此御名無ク一瀛津島
姫命の御名出たるハ第三一書ハ亦名市杵島姫命コ
有を以見れば撰者の心ハ瀛津島姫命を此神ト心
得ルハなる可けれども
他の古書ハ違ハバ諾ハ難一〇凡三女矣ハ凡三柱
能比賣神坐須と訓ハ古事記物實の所ハ先所坐之三
柱女子者云コト有ハ其生坐る御祖神より詔ふハ
然云べきを此ハ其三柱女子を此方より數へ合セ
奉るハれば右の如くあり可一此下ハ故此三女神云
コト有ト同ト所ハればあり備此女神等ハ一ハ右の
如く初中後コ別コハ成出させ御在ハ坐つれども如
何ハ一ハ御體を合せ給ハ一神少ク御在ハ坐ハ

と思ふ由るむ有ける其ハ清和天皇實録ハ貞觀元年
二月三十日丙辰筑前國後二位勳八等田心姫神湍津
姫神市杵島姫神並授正二位大政大臣東京一條^第亭後
二位勳八等田心姫神湍津姫神市杵嶋姫神並授正二
位此六社^居雖異實是同神也之見えたる此ハ此兩社ハ
所祭を同神之云ハ非ず三神宛祭り別て六神之ハ
為る物の實ハ是同一神あり之云事あり可一同一事
なり年中行事秘抄宗像祭條ハ寛平五年十月二十
九日拾云彼社氏人左少辨兼大學頭高階真人忠岑等
解狀依件神坐大和國城上郡與^坐筑前國宗像郡從一位

勳八等宗像大神同神也之有之ハ異あり思混ふ可
らず因云右の大政大臣東一條第ハ今花山院殿の第
ニ成りり予此御社ハ由緒有て深く御恩頼を
蒙奉る事あり故弘化の初ありけり古事記ハ
依て宗像三前大神之申す御名を内大臣家の御年
て書させ賜ハむ事を乞奉りける不當家て所祭
ハ一座ハ有れば然ハ書ハ奉り難ハて宗像大神
との書て令賜たり其頃の予ハ心ハ吾輩の仕
奉りハ皇學ハ民の草葉の末ハ在て風音の遠き
雲上ハ未開けりけり然ハ拙き御事共
の有つるハ獨心突止ハ思て有つるを今日
此説を書き奉り就て予ハ數年の愚ハを悟悔る
事あり其ハ其御家ハ三女神ハ申せ之ハ實ハ
一神ハ御在ハ坐す由の傳共の有て其ハ固執せ御
在ハ坐す御事之右ハ引る此六社居雖異實是同神也
之有る文ハ合せて知らる者あり安政三年ハ其
十一月十日前非を知て説を改むる者ハ一壓乞其
證を云むと古事記ハ此大國主神娶坐胸形奥津宮

神多紀理毘賣命生子阿遲鉏高日子根神次妹高比賣
命亦名下照^光比賣命之有を地神本紀小八^大己貴神先
娶坐宗像奥都島神田心姬命生一男一女兒味鉏高彦
根神妹下照姬命之有て此小合^り又古事記小大國主
神亦娶神屋楠比賣命生子事代主神と見えたる小地
神本紀小八^次娶坐邊津宮神高津姬神生一男一女兒
都味齒八重事代主神妹高照光姬大神命之有て此小
八高照光姬大神命行^りを右の古事記の高比賣命
を此小持來る時ハ相合^り之雖も傳十三百五^十小己小
註^る如く味鉏高彦根神之事代主神ハ別神小ハ

公元曆奏上記事の
書小據小

御在^し坐ぎ^しハ異腹小生出給ふ可くも非ず又高比
賣命亦名下照比賣命之有て同神^らを思ふ小其御
祖神も何^れハ一柱小御在^し坐ず^ば得有^べり^らざる
御事^ら然^して傳十二^九下^十小も云^る神代式^名あり山
城國愛宕郡賀茂別雷神社^{亦名若雷名神大}公味鉏高
彦根神小御在^し坐^し亦名^を大山咋神^也申^り同
郡賀茂御祖神社二座^{並名神大月}之有^ハ其御祖神小
御在^{せる}ガ二十二社註式小鴨^{号下}御祖神^{玉依日}
大己貴神^{別雷御}之有^り又神佛眞應編小其玉依日^咩を宗像
女^姫神也^云ひ鴨氏人記小八^姫大神之有^ハ八幡小

△下三上
十四下小云々如く
東寺久延年ノ云々
世小當社者鴨御
社之御同體朝
家以爲之聖社也
と有る也云々可

て此三女神を一柱にして玉依姬命とも姫大神と申
す小も相符いたる小同式の葛野郡松尾神社二座並名
神大月次 を註式小一座 大山咋 大山咋神 本社一座胞
相嘗新嘗 市杵島姫也 有れ此小て 味耜高彥根
形中都大神 素戔嗚御子 謂ゆる坐宗像中津宮市杵嶋
神の御祖ハ地神本紀小謂ゆる坐宗像中津宮市杵嶋
姫命と成ふり一柱の大國主神小三女神共小娶給ふ
云事ハ無一ハ云べりうざれども味耜高彥根神
事代主神同神ふり小御母神の三柱御在り坐すと云
義更小有まづ事ふるを以て思ふ小三女神共小同
一神少て渡らせ給へども大國主神ハ親一御夫

婦小御在り坐せば奥津宮ふても中津宮ふても邊津
宮ふても其分身を以て娶給へる事も有り故小如此
様ハ小ハ傳の支別れたりより御子神等の亦名も別
神と傳りて異母兄弟の如く小成り者ともむ所見
たゆける 但如此く説の約る事ハ實小假初の事小ハ
非を己小神賀詞講義小説てより以未物
小も多く記したるを今將此傳を書小就てハ此處
マ初て次人ハ我も心行く程小委しく説言せむを
其條小就て故古事記ハ大國主神の嫡后須勢理
熟讀味不可一故古事記ハ大國主神の嫡后須勢理
毘賣命と有て一神の趣ふるも大同本記又神宮雜例
集の趣小合り同記小其神之嫡后須勢理毘賣命云々
如此歌即為宇伎由比而宇那賀氣理王至今鎮座也此

謂之神語也。有引續して故此大國主神娶坐胸形
 奥津宮神多紀理毘賣命生子云々有右の嫡后ハ
 胸形女神小御在坐す事を知せたる物々奥津宮
 神一柱小係たるハ如何なる事なる也右小辯たる
 ガ如く己々より奥津宮神小邊津宮神小各娶給
 へるガ如く其傳の別々小分れたり者なり雜例集
 小三女神 宇佐島降居道中奉助天孫而為天孫所祭
 止詔之須勢理姫有々ハ三女神を合せて須勢理
 毘賣命小御在坐云々古史徵六十四の說允小當れ
 る事右小其説を演明するガ如ク
又第三ノ一書小今
 在北海道中號道

命
 主貴云々一柱小合せたる御名多色其事今茲小
 云々煩々ハ一りけり其傳小就て云べ一如何
 小見ても此の三女ハ一男小約り
 次の五男ハ三男小約り聞ゆるをや
 既而素戔嗚尊乞取天照太神
 髻髮及腕所纏八坂瓊之五百
 箇御統濯於天真名井齧然咀
 嚼而吹棄氣噴之狹霧所生神

號曰正哉吾勝勝速日天忍穗

耳尊次天穗日命是出雲臣土

次天津彦根命是代直等祖也

次活津彦根命次熊野櫛樟日

命允五男矣

ミコトノスベライツミラフヒコニセマセリ

此ハ五男神の成出坐_マ一_レ本傳あり大旨古事記小同

ト_クを彼ハ精_ク一_ク此ハ粗_ク一_ク雖_レ其趣小於_テ違_フ

事無_レ一_レ被記小云_ク速須佐之男命_ニ度天照太御神所

纏_リ左御美豆良八尺句穗之五百都津之美須麻流珠而

奴那登母_ニ由良尔振滌天之眞名并而佐賀美迹迦美

而於吹棄氣吹之狹霧所成神御名正勝吾勝_ニ速日天

之忍穗耳命亦_レ度所纏_リ右御美豆良之珠而佐賀美迹

迦美而於吹棄氣吹之狹霧所成神御名天之_レ苜卑能命

亦_レ度所纏_リ御髮之珠而佐賀美迹迦美而於吹棄氣吹

之狹霧所成神御名天津日子根命又_レ度所纏_リ左御手

之珠而佐賀美迹迦美而於吹棄氣吹之狹霧所成神御
名活津日子根命亦乞度所纏右御手之珠而佐賀美迹
迦美而於吹棄氣吹之狹霧所成神御名熊野久須毘命
并五之有て此小合り右の如く左右の御美豆良又御
柱髪又左右の御手小纏くゆる珠
の事を委しく書たれども此小乞取天照太神髻髪及
腕所纏八坂瓊之五百箇御統之約記されたるも共小
以りも異り第一一書小素彥鳴尊以其頸以所嬰五百
無き者なり第二一書小素彥鳴尊會其左髻所纏
箇御統之瓊云々第三一書小素彥鳴尊會其左髻所纏
五百箇統之瓊云々下章第三一書小素彥鳴尊乃輻輳
然解其左髻所纏五百箇統之瓊給而瓊響瓊云々
有るご其物根を互小相換給へる傳ありけるは皆共

小誤あり事己小上百七十小註せるが如く唯第二一
書小天照太神謂素彥鳴尊曰以其吾所帶之釵今當奉汝
汝以汝所持八坂瓊之曲玉可以授予矣如此約束共相
換取之有るふむ此之古事記の旨小相合て甚愛た
る者あり古語拾遺小於是素彥鳴神欲奉辭日神昇天
之時櫛明玉命奉迎獻以瑞八坂瓊之曲玉素彥鳴神受
之轉奉日神仍共約誓即感其玉生天祖吾勝尊之有る
傳の状ハ此の第二一書小似たれども其玉を日神小
奉給ふ上ハ其約誓ハ日神の成給ふ事小成て其御子
を生給ふも日神の御所為之成水ハ餘り小事略た

る小過て眞旨を失へる者あり故情思ふ小然計の事
ハ非ず日神小奉りるを心得ざる廣成主小
約誓混不及びて其を乞取て吾勝尊を生坐り其玉ハ日神の物根あり
甚混況混ハ一混偕此五男神の御生坐る其書ハ状あり小ハ異説あり
第一一書小素戔嗚尊以其頸所嬰五百箇御統之瓊濯
于天渟名井亦名去來之眞名井而食之乃生兒有て
此ハ唯嬰せる瓊より五男神の生坐る由小ハ異ふ
る傳ふり第三一書小ハ素戔嗚尊會其左髻所纏五百
箇統瓊之瓊著於左手掌中便化生男矣則稱之曰正哉吾
勝故因名之曰勝速日天忍總耳尊復會左髻之瓊著於
右手掌中化生天穗日命復會嬰頸之瓊著於左臂中化

生天津彦根命又自左臂中化生活津彦根命又自左足
中化生熯之速日命又自右足中化生熊野忍踏命云々
便取其六男以為日神之子見えて玉を唯會給へる
のよして左右の掌中小著け左右の臂小著け又左右
の足中より御子を成坐る云ハ又別小異ふる傳ふ
り又下章第三一書右同トク素戔嗚尊乃輻輳然
解其左髻所纏五百箇統之瓊給而瓊擲音瑤濯音浮於天
渟名井其瓊端置之左掌而生兒正哉吾勝之速日天
忍總根尊又復其瓊置之右掌而生兒天穗日命云々
凡六男有て此二の傳小ハ六男と為る事又心得

ぬ事共あり 神祇本紀小も右の二傳を取合せて六男
と為る事本より誤あり予が見る所ハ其
五男と申すも亦名の重複あり其數小ころ當れ其
實ハ三男とて御在り坐ける其ハ次ニ下小云を以
て曉る 唯諸傳の中ハ第二一書のミころ獨其真正を
可なりけり其文小右小引る如く日神素戔嗚尊
と相共小劍と玉とを相換給ふ事有て次小於是素戔
嗚尊以持劍浮寄於天真名井嚙斷劍末而吹出氣噴之
中化生神云凡五男神云尔と有り然れども其最前
小天穗日命の成坐るハ誤あり其小てハ素戔嗚尊
の初めて男御子を得て正武吾勝之言舉させ給へり
此の專要と有る趣を失へる者あり諸傳傳ハ此

五男神の成坐る物根を何れも瓊と為るを此傳の
劍より生坐る趣ありを甚愛たく所思るハ如何と云
小其ハ上百九十小粗云るガ如く此五男神の御子
孫ハ多く鍛冶又ハ鏡作ふどの神等の御在り坐り
心然る幽契小依れり所思りければあり 其ハ此時
小生坐る
三女神小玉依姫命と由良比女命と玉若酢命と
も申す御名有ハ何れも玉小因て成坐る所以ありを
も思合す可り ○既而ハ天照太神の御事竟て此より
素戔嗚尊の御誓小移る所あり ○鬢鬢及腕所纏ハ坂
瓊之五百箇御統ハ上小謂ゆる武備一給ふ所小便以
ハ坂瓊之五百箇御統纏其鬢鬢及腕と有る御物を云

ふり○正哉吾勝勝速日天忍總耳尊ハ古事記ハ正勝
吾勝ニ速日天之忍總耳命ニ有テ正哉ニ正勝ニ作ル
ごも其訓ハ共ハ麻佐加ふる事次ハ云カ如ク此ハ
第一一書第二一書ハ正哉吾勝ニ速日天忍骨尊ニ
有リ其を下章第三一書ハ正哉吾勝ニ速日天忍總
振尊ニ作り第三一書ハ便化生男矣則稱之曰正哉吾
勝故因名之曰勝速日天忍總耳尊ニ有ハ御名ノ起ル
由縁あり斯レハ正哉吾勝^{速日}ニ其御誓^{速日}ノ驗有テ男
御子ノ正一ノ成出給へるハ就テ素戔嗚尊ノ言擧^{速日}
せ給へり御誓^{速日}ノ加ハれり^{速日}勝速日天忍總耳尊

△天照太神より
天津日経を授
奉るを給へり
申して實ハ

ニ申奉る^{速日}主張たる大御名ハ御在^{速日}坐ける然レ
語拾遺ハ天祖吾勝尊ニ有ハ己ハ正哉吾勝ニ速日ニ
續^{速日}て御名ニ成たるを略^{速日}たるハ有^{速日}べけれども
餘^{速日}り小事略たる事あり地神祇本紀ハ正哉吾勝ニ
速日天忍總耳尊ニ有リ神名式ハ土佐國香美郡天忍
總耳神社有レ然^{速日}正哉記傳七^{速日}五^{速日}十^{速日}麻佐加^{速日}訓
べ^{速日}哉^{速日}を^{速日}加^{速日}訓^{速日}む^{速日}ハ固^{速日}より論無^{速日}一勝^{速日}を^{速日}加^{速日}訓^{速日}む^{速日}由
ハ此記ノ正鹿山津見神を書紀ハ正勝山祇^{速日}ニ書テ正
勝^{速日}此^{速日}云^{速日}麻佐柯^{速日}ニ有^{速日}ル此^{速日}例^{速日}あり^{速日}言^{速日}意^{速日}ハ正^{速日}一^{速日}哉^{速日}ニ云
む^{速日}如^{速日}一^{速日}採^{速日}要^{速日}ニ有^{速日}リ右^{速日}ハ請^{速日}與^{速日}妙^{速日}共^{速日}誓^{速日}夫^{速日}誓^{速日}約^{速日}之^{速日}中^{速日}必^{速日}當^{速日}
生子如吾所生是女者則可以為有濁心若是男者則可
以為有清心^{速日}ニ言立給へる如^{速日}く男御子を生成^{速日}一給^{速日}へ

るが故小正しく勝驗を得たる哉と日神小對ひて申
 奉らせ給へる御言ふり第一一書小故素戔嗚尊既得
 勝驗於是日神方知素戔嗚尊固無惡意之有を以其正
 哉之言舉給へる意を曉る可くあるむ有けり 予先小思
いけり
 万葉二十四十八の卷ニ小麻佐可云語有る其ハ
 百七十七丁當字の傳小引る右の俗小麻佐加能時不
 之始小同トく其時を此ニ指て云語ふれバ素戔嗚尊
 云ふ御心ふて然宣へりしりども麻佐加の時ハ吾勝
 あり説ふて有けれバ後世然る僻説の出來おどき為
 小我過てる事 吾勝ハ右小引る第三一書小則稱之日
を云置かるむ
 正哉吾勝故因名之云々見元又古事記小亦速須佐
 之男命白于天照太御神我心清明故我所生之子得手

合卷第三一書日神云
 立誓約曰汝若下
 有折賊之心者汝
 所生子必男矣云々
 其素戔嗚尊所
 生之兒成己男矣
 故日神乃知素戔
 嗚尊元有赤心

弱女因此言者自我勝云而之所見たる是あり但得手
 弱女ハ此小合ハズ古史徵 第三十
三段 小此文を引て論つ
 りハれたる如く此の正書小 限りて 右の御誓言有の
 り 第一一書 小日神共素戔嗚尊相對而立誓曰若
 汝心明淨不有陵奪之意者汝所生兒必當男矣云々故
 素戔嗚尊既得勝驗於是日神方知素戔嗚尊固無惡心
 之有る此ハ日神の御方より誓の驗を見む詔給 給へ
 るあり第二一書小諸與姪共立誓約誓約之間生女為
 黒心生男為赤心下章第三一書小吾若懷不善而復上
 來者云々生兒必當為女矣云々如有清心者必當生男

矣と有る此ハ素戔嗚尊の御自誓言を立給へるなり
此傳ニ共小男御子を以て清明ニ御心の證ニ爲給へ
るれば女御子を得て然誇り給ふ可くも非れば
決めて古事記の^得手弱女ハ得男御子して我勝ニ詔
給ふ可き御事なり故思ふ此ハ記者の誤なり可
其ハ彼記ニ此ニ同ドク日神ハ三
女神を生坐一素戔嗚尊ハ五男神を生坐る傳ふて其
小異義ハ非る物々其終ハ於是天照太御神告速須
佐之男命是後所生五柱男子者物實因我物所成故自
吾子也先所生之三柱女子者物實因汝物所成故乃汝
子也如此詔別也と有て男御子の生坐る物實ハ彼神
の御ふるを以て其小相應へて元本ハ得男御子
有けむを得手弱女ニハ勝速日ハ記傳小加知波夜備
云換たり者ニ所見なり勝速日ハ記傳小加知波夜備
訓べー下文小因此言者自我勝云而於勝佐備云

今を記し重複
例ニ神名小大元持
伊那波伎神社又
ニ神伊豆乃買神
社と有る同ノ例
あり

と有る同意して速ハ疾く烈しく猛き意日ハ夫流こ
も活きて速日ハ即獲速日極速日又饒速日ふと皆同
ト云れたるが如く但獲速日ハ巖速日極速日ハ身
速^ハカ^ハ由傳十九十ハ云れたる此ハ異なり稜威の
疾く烈しきを鎮火祭詞小御心一速^此と有る如く此
ハ勝に誇り事の^{スル}交利^ドく甚しき故小勝速日ニハ申
せらふて此ハ實小右の勝佐備小因^ハ御名^ハ古^手
史成文小其勝佐備の事を記して下小亦名勝速日命^尊
と有る理小於て然^ハ有る可き事^ハ此^ハ未^レ其^レ證
ハ天孫降臨章第七書小勝速日命^尊ハ天孫降臨ニ有る也
を見ざる小就て諾^ハ事^ハ得ざるなり
借勝ハ肩の對
ふる事人の知

△猶下なるル河内道の
の傳ふ云を思合
す可しなり

此乃が如し然れども其義の於て未詳、小爲ざる
所なり故今試小頁を姑く申註して其及を求む
勝ハ上出り又ハ上立の意ハ在べし然るハ天孫降
臨章小宗字を加多は訓るハ上立少勝れて能爲
給ふ謂ふり又其第二一書小召國主事勝國勝長狹
有ハ國主あり故小事小上立ち國小上立つ義あり
然れバ勝ハ物の上 忍穂耳の忍ハ又天大耳尊
申せれば忍ハ大なり第三一書の熊野忍隅命を下章
第三一書小ハ熊野大隅命と有り忍ハ大ニ相通へる
るり此次に不出たるハ河内を安閑天皇御紀推古天皇
御紀等小ハ大河内と見え續紀四十五下ハ改大押
字乃注凡直ニ云事ハ所見たるを合せて曉る可し
事記の天之忍許呂別ハ天之大凝別の義あり又大事
忍男神ハ大事大終神の義あり事己小ハ云ハ如し

忍穂ハ大穂なり大耳尊ニ申す大ハ大穂を約めたる
あり其義相第一あり若て大穂ハ瑞穂ニ云むが如
一ハ大ニ瑞ニ共ハ通ハ例ハ古語拾遺天石ハ二神以天
御量伐大峽小峽之村而造瑞殿と有て後ハ御天降ハ
度小ハ供奉其職如天上儀と有るハ神武天皇段ハ
始採山林構立正殿所謂云ニ皇孫命乃美豆乃御殿造
奉仕也と有て瑞殿と正殿とを一ハ云ひ又大殿祭詞
小天之御醫日之御醫 造奉仕流瑞之御殿と有る
是なり 此美豆ニ云言の唯麗ハ一ハ事ニ耳思ハ不
是ぬ事あり美都ニ新ニ云語も満ハ然り
物の充満たる状を云ハ諸其満ニ云ハ物の大ハ成極
まるを云ハ美豆ニ美都ニ語の續ハ依て清濁ハ異

ふれども穂ハ天孫降臨章第二一書小天照太神手持
同言あり穂ハ天孫降臨章第二一書小天照太神手持
寶鏡授天忍穂耳尊祝之曰云々云文小次又勅曰
以吾高天原所御齋庭之穂亦當御於吾兒之有る此時
の稲穂を以て称奉れら大御名あり然るハ此詔命ハ
顯國小天降一奉らせ給ふ不就て如此詔託させ給へ
るハ有れども素より此國土を統御す可き皇御孫
尊之定奉らせ給へる貴御子小渡らせ給ふ故小始
より瑞穂を以て称奉らせ給へるあり其ハ古事記大
國主神の御言小唯償住所者如天神御子之天津日繼
所知之登陀流天之御巢而之有る天之御巢ハ此忍穂

耳尊の天上小御在り坐る大宮の御事あり天津日
繼之申奉るハ天神の給依り奉らせ給へる御貢を所
聞者す御事あり未降坐ざり以前小ハ天上小ハ
既小瑞穂を聞食一御在り坐りありけり又其下小ハ
天照太御神高木神之命詔太子正勝吾勝之速日天忍
穂耳命之有る太子ハ日繼之御子之云言ふるを思合
せし曉る可き者あり大殿祭詞小皇我字都御子皇御
天津日嗣平万千秋乃長秋尔大八洲豊葦原瑞穂之國
平安國止平氣久所知食止言寄奉賜比云々中臣寄
詞小皇御孫尊波豊葦原乃瑞穂乃國遠安國止平分久
所知食天天都日嗣乃天津高御座仁御座天天津御膳
遠長御膳乃遠御膳止千秋乃五百秋仁瑞穂遠平分久
安分久由庭仁所知食止事依志奉互天降坐之有る

右小引る御紀の御依一の御事を述たる者おて始ハ
此尊の御事ふを天降り御在坐す成て瓊杵尊
の御事小成れ事己小大殿祭詞又中臣壽詞等の講
義小云るを思ひ又此以下三御代の皇御孫尊の大御
名も稻穗を以て称耳ハ上る美ハ御下る美ハ所
奉り思ふ可一耳ハ上る美ハ御下る美ハ所
知者す義ふる事傳八ハ下小註るが如し記傳小耳て
ふ尊称の意ハ美ハ比小通ひて彼産靈ふごの靈ふる
を靈ヒこ重ぬたる者ふり開化天皇の大御名若倭根
子日子大毘毘命申す是ふり此を書紀ハ大日
尊ミ有り垂仁天皇御紀ハ太耳フミ云人名有を以て日
こ再ミ同ミを知べ一又明宮段ふる前津見ミふ
人名を前津耳ミ有り又水垣宮段ハ陶津耳ミ有を舊

事紀ハ大陶祇ミ有を以ミ見ミ美を二重ぬたる小
て見ミ云ハ其を一略ける者ふる事を知べ一略中又某
須美ミ云名ミ其須美ミ云と通ふ事を考合せて耳の
靈ヒふる事を曉る可ミ有り其ハ甚委ミ説ハ
有れミ大毘ミをミ大御者ミ心得たるむ方ある目
易く有ぬ可ミ其上産靈を牟須美ミ訓る其毘ミ合ミ
註せるが如し又右の大耳ミ事ミ小傳四卷十下ハ
も知べミ且前津耳陶津耳ふどミ再ミ此ミ同ミ
くハ有れミ御ハ真ミ通へれミ又天忍穗根尊ミ称
奉る根ハ倭根子天皇ふミ申奉る根ミ字の如く物
の基ミ御在坐す義ふる倭根子ミ申奉るハ天

下を所知者す天皇小坐せば此國土の根基小て渡
せ給ふ義あり古事記訶志比小難波根子武振熊命と
云人名有し武振熊命ハ名小て難波根子ハ其地を知
れり由ふと云ふ負る者あり可し然れバ恐穂根と申
奉るハ右小註る如く天津日繼の瑞穂ハ此尊の授
り奉るせ給ふ御物あり其物の根と申す義小て其
即所知者小て有ければ上あり耳と然し異あり
ゆけり者あり此根子云事己中臣壽詞講義大倭
小此小天恐骨尊此根子天皇の下小云るを見たり可し記傳
大根王を書紀小ハ神骨と有ゆ此例あり恐穂根ハ恐
大根るる事を知べし云れり其心云事と通え難し又天恐穂別尊

と申奉るハ天下蒼生の朝夕小賜る此瑞穂ハ一も皇
太神より此尊を日繼の御子とて事依り授奉るせ
給へり御物あり別ハ字の如く領ち別させ給ひて
人皆小賜ふ義ありバ恐穂別と申して恐穂主と申奉
る如し上の恐穂耳又ハ恐穂根と申奉る小合せて
其御名義を曉る可し今淡路國の方言小食物
氣を食ハす云ふ和氣即此別ト同ト〇神名式小山
惣て其別と云ふ神名人名皆此例あり
城國宇治郡許波多神社三座並大月山城風土記小宇
治郡水幡社社社名天恐穂根尊と釋述義小出たり又一
所小引る小ハ名天恐穂長根尊と有れば然も申奉れ

のしる可し今二座未詳ふと雖も天孫降臨
章第七一書小萬幡姫兒玉依姬命此神爲天忍骨尊妃
之所見なれば其天忍穗根尊小栲幡千之姫命之其御
女王依姬命之三神を合祭れふと非ト同郡
天穗日命神社有り又日向神社之申す御在し坐り其
御子瓊杵尊の日向國小天降坐る所謂不就て由有
けり事共小有れと今考ふ可き據無き惜
し事少む清和天皇實録小貞觀元年正月廿七日
甲申奉授山城國從五位下許波多神從五位上之有り
抑天照太神素戔嗚尊の貴御子大座坐て天津日繼

の天祖之御在し坐る小此皇太神を齋祀れる御社
三社の中大社の列小入せ給へる此御社之小
不僅不從五位上の神階を奉り給ふ計あり如
何ありけり事不其時勢高き人の先祖ふごの朝廷
小も天下小も功無き人小な小名神大社小列あり高
き神階をさし小被授る小甚小不足小御會釋小ふ
む有けり釋述義小大仰云本幡社可謂宗廟故尊崇可
存知之人歟如風土記者宗廟之神尊崇可異他歟弘長
諸祭興行之時當社祈年月次祭幣帛神主請取之由載
本官史生散狀當時見在歟有て宗廟ふ宣へるこ
る當時の習俗味氣無き事ありけり此大問の趣
を考ふ小朝家の御會釋衰へて有無り小成坐
るを下小歎せ御在し坐ての御問見ゆ實小を不

御事又神名式小土左國香美郡天忍穂別神社有り
 谷重遠ハ式社考小山田野東西舊有八王子社近物部
 川此社歟物部川源有鏡岩ニ云リ神祇本紀小此御名
 を正哉吾勝ニ速日天忍穂別尊ニ出せルバ同神トて
 渡レせ給ふ可クけれド其祭來ル由緒今詳クズ同
 國幡多郡ハ萬幡姫命小由有リ又吾川郡天石門別安
 國玉主天神社有ハ手力雄命小坐テ其神ニ共小御戸
 開神小坐セバ右ノ二神小由有トモ云フ云フ不可ケ
 れドモ其モ唯推量小云ノモリありキ姓氏録小火明命ニ
 此レ天孫本紀小天照國照彦天火明櫛玉饒速日命ニ有
 三世孫天忍人命次天忍男命此命葛木土神劍根命女

公昔本呼而

公季一ノ傳ニ
一巻ニ下リハ云フ

賀奈良知姫為妻生ニ男一女ト有リ依テ式社考小劍
 雄社在賀奈知社南一里劍根命葛城姓而葛木男神社
 在劍雄西北一里ト云フハ此國ノ式社小當テ云フ小
 然ル事小ハ有レドモ天忍男命トハ同神小非ズ故
 思フ小大同類聚方小土佐國香美郡人物部文連云コ
 忍穂別神社ハ祀奉ル小ハ非ズ和名抄郡名小香
 美ニ加シ美ト有リ鏡小因ルハ大和國城下郡鏡
 作坐天照御魂神社大月次新嘗ニ有リ饒速日命ト御
 在リ坐シ尾張國中島郡眞墨田神社名神大火有リ眞
 澄鏡小因ル神名ツ宗廟社櫻問答小天大明命ト
 有リ如ク多クを思フ小決メ其由小因ル郡名小
 有リ又神名式小豊前國田川郡忍骨命神社今彦
 山権現ニ申ス是ル長寛勅文小載ル熊野御垂跡縁
 起小鎮西日子ヲ山峯雨降給ト有リ此山を云フ或
 書小豊前國彦山南岳伊弉諾尊権現中岳伊弉册尊

○日本書紀傳十五

○

稱女体北岳天忍總耳尊稱法体有如く今祭る所
權現三神續後紀天長四年十二月心此社の事を
書一元來是石山而土木無至延曆年中遺唐請益僧
最澄躬到此山祈云願緣神力平得渡海即於山下為神
造寺讀經尔來草木蒼鬱神驗如在每有水旱疫疾之災
郡司百姓就之祈禱必蒙感應年登人壽異於他郡望預
官社以表崇祠許之有最澄法驗不依狀不
るハ妖僧不欺此を給へるあり石山ハ素より土木
ハ無き筈あり唯一度許經を誦たればこて何ぞ忽小
草木の蒼鬱耐るこ云理有むや其ハ草木の生出へき土

の有、為ふを何の奇く事こハ為む古然る
峻峰ふ登見る人の非りけれハ麓より打見たる
任小土木無き山こ云を耳小入置て密小人を登せて
山を消息を見澄一置て其より漆紙を囀り始め人を
導登せて法驗有一狀小云持へて國郡司以下百姓を
も欺たり者あり今も僧房多く有て其法脈を續く
髮長等ハ仕奉れ社と成めと如何ハ神の御心苦
しく所思者すむ備悪き妖僧あり有ける釋書
最澄傳小弘仁五年春於賀春神宮寺講妙經是時豐前
田川郡吏等録瑞雲狀寄之澄固封告義真云非吾滅後
不得開緘寂後門弟子等披閱其文云今月十八日未時
紫雲光耀賀春嶺復法筵之庭村民悉見敬異又是澄泛

ハ曲者多

海時宿田河郡賀春山下夢梵僧來前袒衣露身左肩似
人右肩如石言之云我是賀春明神也和尚慈悲教吾業
道之身我當加助未法晝夜守護欲知我實海中急難現
光為驗澄明旦時山右邊萌巖草木不生宛如夢中半身
心異焉又海中風浪果有光耀是以思神之不浪也而建
法華院自創講席乃神宮院也開講之後其右巖之地漸
生草木年々滋茂鄉邑嘆異之有此事多可一文小
固封ト義真不授けて滅後不緘を開りせたるハ白
ハ曲者多故不年立て後ハ其項の人也此世の
外の人と成ふれハ其真偽を云者有べくハ此世の計
りて然る妄説せし者あり澄ハ海中ハ急難ハ遇る
時ハ光を放ちて救ふりハ山ハ草木を生ずる方何
程ハ易りぬ可し此醜ハ醜ハ法師ハ謂ゆハ西部神
道を始たる故ハ斯ハ僻事を多く出りて清ハ神地
を穢し奪たる事ハ擧す因ハ云ふ伊豆國賀茂郡小中
古ハ名高る伊豆權現ト申す御社御在し坐す又走湯
權現ト申す是ハあり走湯山縁起ト云書ハ相摸國より

日金嶺ハ迂奉ハ由云るハ相摸國陶綾郡高麗寺村
三社權現の御事ハ由彼社傳ハも云り偕其日金嶺
ハ右の彦山の如く彦嶺ありしを好字を著て然ハ書
るあり可し縁起の中ハ本名久地良山ト云るハ
日金嶺ハ鎮座ハ後ハの名あり事知る續後撰集ハ伊豆
の御山ト云る是ハあり又略縁起ト云物有り高天原ノ
り忍穗耳尊栲幡ノ姫命瓊ノ杵尊三柱大神等天兒
屋根命天太玉命を補翼ト成し八十万神を伴ひ天降
坐し始て此高嶺ハ行幸し給へるを以て伊豆の御神
ト崇奉するト云り然れども忍穗耳尊ハ此下土ハ天降

坐ざりしは此例ハ取難シ又伊豆ニ云説ハ信む
 可くしずと雖も本宮大権現社天忍穗耳尊福當辨天
 兒屋命白湯辨天太玉命ニ有ハ是走湯本社あり又講
 堂大権現社を天忍穗耳尊ハ一伊豆権現あり云
 い中堂大権現社天忍穗耳尊栲幡千姫命ありと有
 て同處ハ三社小御在し坐り又女体権現を遍照権現
 ニ申して権現の御后千姫命ありと有ハ天忍
 穗耳尊の后神ハ其御女王依姫命小坐を知ら由ふ
 り雷電童子社を縁起ハ東明走湯儲君也と見え略ハ
 伊豆大権現皇子瓊杵尊を祀るあり今新ハ荒御魂

△但日金嶺の事ハ
 就て今一の老有ハ
 傳ニ千一巻六十二ハ
 云ハ

を祀ル故ハ今宮ニ云ふ東鑑ハ謂ゆる光宮是ありと
 有ハ相摸の三社権現をも天忍穗耳尊千姫命瓊
 杵尊の三神あり由云ハ何ハ一してハ彦山ハ日金嶺
 ニハ同名同縁の御社と思ハあり又箱根ハ日子根
 あり云名も有ルども其ハ箱の縁あり可ハ此ニ社ハ
 中古ハ伊豆箱根ニ申並べて御榮坐ハ神等ありハ
 ○天忍穗耳尊の鎮坐ハ右ハ引ル神名式ハ載ル所
 ニ社有ハ式外ハ右の両社の外物ハ所見ずと雖も
 猶山城國愛宕郡賀茂別雷神社ハ上二百十小註ガ
 如ク事代主神小御在し坐を元曆奏上記ハ賀茂別雷
 皇大神宮上社四座中所祭正武吾勝ニ速日天忍穗耳尊

左高皇產靈尊右武祗命後事代主命也コ有少後コハ
 其主神ハ事代主命小御在一坐故小其奥方小鎮坐一
 て天忍穗耳尊等の三神ハ謂ゆる前社コ申す者少少
 官帳小載る所ハ別雷神社一座少御在一坐ふれど
 も其實ハ右の如く四柱少渡レ給へる者少同
 記小自神代所鎮上社事代主命下社大己貴命而已云
 二神武天皇東征之後以高神皇產靈尊祭上社云コ欽明
 天皇二十八年四月中酉自大和葛木鴨逢日村社本所
 祭三座兒神皇兒神以味耜高彥根命陪之地依神宣遷
 山代別雷山遺味耜高彥根命止葛木鴨吾勝尊與兒神

至祭於山城以皇兒神忍穗耳尊祭上社以兒神素戔嗚尊祭下社
 有少右の逢日村社云ハ神名式小大和國葛上郡
 高鴨阿治須岐詫彦根命神社並名神大月次相嘗新嘗有少此社
 の御事ふるが斯文の如くハ此も其神ハ主神少御
 在一坐せども猶素戔嗚尊兒神天忍穗耳尊皇兒二
 大神小陪従一奉給へるを山城國賀茂小其和
 魂事代主命の御在一坐す地小移奉レ給へる猶故の如
 く陪従一奉給へる者少又同記小鴨御祖皇太神宮
 左神皇產靈尊右大己貴命也有少賀茂下上吉懷記
 下鴨次第小中兒神左大己貴命右皇產靈尊有少左
 右共小違へるが如一此二説共小御祖社の御祖神を
 漏レ鴨神撰記小御祖皇大神宮中日夕大神左神日

ハ多ク但此兒神若ク
 ハ素戔嗚尊ハ兒神
 二申す事ハ實ハ三
 神を申奉ルルガ
 少少見合へ
 三者

本磐余彦尊右高皇產靈尊客御前大己貴命と有り此
日女大神ハ謂ゆる宗像姫神ハ一ツ別雷神の御祖ハ
坐す事己ハ然れども右の高鴨ハ賀茂ハ此天忍
上ハ云りき穂耳尊の如此く鎮り御在り坐す御事如何なる故
も今知べし雖も此ハ以縁の事ハ非る可
其此の天孫降臨章古事記の同段共ハ天神の御命以
て大國主神事代主神ハ神問ハ令問給へるハ專此
尊を天降し奉りせ給りむとの御事あるが其御父
大神ハ恐レ此國ハ天神御子ハ立奉給へると先最初
ハ歸順ハ仕奉給へるハ此事代主神ハ御在り坐して此
時ハ契聞えて神之御尾前と爲て仕奉りむと申給へ

るも此尊ハ對ひて令申給へる御事少ク瓊杵尊の
未生坐ざりし間の事ハ有れば右の事件ハ就て
殊ハ御親昵ハ御在り坐す御所謂の有ればる可
然れば此事代主命の宮所ハ共ハ並御在り坐る故
由ハ右の高鴨社ハ始れり御事ハ出雲神賀詞ハ乃
大穴持命ハ申給へ皇御孫命ハ静坐ハ大倭國申天已
命和魂ハ八咫鏡ハ取託天云己命ハ御子阿遲須伎
高孫根ハ命ハ御魂ハ葛木ハ鴨能ハ神祭備ハ坐云皇
孫命能ハ近守神ハ貢置天ハ百丹杵築宮ハ静坐ハ有
る皇御孫命ハ此尊を指て申させ給へるるれば此御

時ふごよみ此尊の大御璽をも共小齋ひて鎮置御
 在一坐けむ々々一賀茂下上吉懐記上社條小若宮在本宮東
 傍瓊杵尊之若宮何何何の神小對へて然申々々給
 小む此を以ても此賀茂別雷神社又其本之有つ高
 鴨社共小此天忍穗耳尊必鎮御在一坐御事以
 一も違無る可くるも所思えたる然れ々天下の社
 小の中々此尊を祀奉らる最尊之右小二社小限
 小之者之多む所見たる然れども奏上記小以皇字継
 日祭詞平野祭詞小皇祖之御神を皇大御神不
 小申せるを思ふ可一又世の古学者等の言小幾座
 座之別之一神の如くの思ふ固陋之其ハ幾
 座之別之一又何神を合せて一社之爲る例數多有

事共小又神名式小述江國滋賀郡日吉神社名神此
 小之事共○又神名式小述江國滋賀郡日吉神社名神此
 在世小山王七社之云ふ其中小大宮二宮聖真子を注
 式小以上謂之三聖之云て甚重き中小其大宮二宮を
 三代實録小大比叡神小比叡神之見えたるを注式小
 引る杖桑名月集小大比叡明神云大和國城上郡大
 三輪神天降之有らバ大物主神小御在一坐御事以
 神ハ尊昇分脉小事代主神述江國日吉二宮号小比叡
 大明神之見え日吉神道秘密記小此を地主大明神之
 有て此即山未之大主神之由神壽詞講義百五小註
 々ガ如一聖真子ハ同記小地神第二是也之見え豊葦

原卜定記小も聖真子波吾勝尊奈云々も云々此を
 何故小然申するるるバ仁明天皇御紀奉賀四十寶算
 歌小蓋刺天照國乃日宮乃聖乃御子云々と詠乃日宮
 ハ天日を云ひ日知こハ其天日を所知食す謂少即
 天照太神を申奉り御子こハ天忍穗耳尊を申奉り
 御を真こも書く故小聖真子こ書來る事小成ぬ
 者あり此も大物主神事代主神小相並ハせ御在一
 坐す事右小云る賀茂の例小異ありされバ然る可し
 故有てこ祭る御在一坐一けめ右の七社の第四
ハ王子を立男三
女神ありと云れども聖真子ハ天忍穗耳尊十禪師ハ
瓊杵尊三宮ハ三女神小御在一坐上ハ同神を格

別小又祭る可し非バ此ハ誤り實小ハ禰神
 を俗小ハ王子こ申習ひつる事傳十二卷六十九下小
 云るガ如く日吉祇園ハ王子こ申す是あり五小
 客人宮菊理媛神あり六小十禪師瓊杵尊小坐一七
 小三宮ハ謂ゆる三女神小御在一坐り皆由有る神あり○又神名式小出雲國出
 雲郡御碕神社風土記小美佐伎社こ作り又出雲御碕
 山云こ西下所謂所造天下大神也社坐也こ有い貯築是可し
又不置神祀宮こ有る御前社同御前社こ有る三社ハ有り
 伏社此小當る可しけれバ此御碕社御事ありげ今
 此を日御碕社こ申して上下二社有り上社ハ束水神
 相殿神三座田心姫命湍津姫命市寸島姫命少其ハ
 束水神ハ名神記ハ握髮尊者素戔嗚別祢也こ有ガ
 如一下社ハ同記小大日靈貴尊相殿五座正哉吾勝尊

此御社の御事
傳字三卷三百十
二一の云べ

以下五男神等あり但同書小當國大日靈貴產生之地而今又有日神垂跡也故名日御碕
事傳八卷安説ふり日神の御生坐一ハ殿馭盧島あり
天曆帝深崇此社加賜日字号日御崎
國佐伯郡伊都伎島神社名神大一宮記載る所市杵島
姫命ふりと雖も今現祭る所大宮六座中天照太神
素戔嗚尊左天湍天神大國主命但此天湍天神ハ菅神
小てハ更由無一少彦名命小御在す可一右三女神
國常立尊但此ハ三女神の所祭り御在一坐る豊受大
神の御事を中古より以來國常立尊又ハ大元神ふど
も申掠められハ必其御饌都大神小御在一坐る不可

一又其第一攝神大元社ノ申すを國常立尊を祭る
云右小同ト上二百十ハ云る事共を考合す可一偕
大宮小並びて客人社有り五男神を祭奉ると云れバ
此天忍穗耳尊を主として齋奉ル事申すも更ある
御事あり猶此神社の御事ハ此不然一も云べき所不
る宮所を顯ハ一奉り將欲して今茲ハ註一奉れるふ
り然れハ五男三女を合せてハ王子と云るハ本
より誤る事右小云るハ○天穗日命古事記ハ天
如くるハ例ハ立難一
苦比命と作出雲風土記ハ天乃夫比命と有り
を夫と云例ハ傳十九經津主神の下小註るハ如一
偕此神の生坐る次第ハ天忍穗耳尊の下天津彦根命

の上不在りて何れの傳も同ト云を唯第一一書ハ
 次天穗日命次熊野忍踏命之五男の第四不在り第二
 一書ハ吹出氣噴之中化生神號天穗日命次正哉吾
 勝ニ速日天忍骨尊之有て此ハ其第一不在り共ハ
 異る傳あり其外ハ何れの傳ニ雖も少クも異る所無き者あり諸右の第一一書ありハ
 本名之亦名之重りて一ハ成穗日ハ穗飯あり可一其
 れる者あり其事下ハ云べ一
 八傳十四百二十ハ已ハ註せるが如く上章第十一一
 書ハ謂ゆる保食神の御事ハ一也此御誓ありハ後不
 空隱よりハ以前の事ありハ月夜見尊事有て後ハ天
 照太神復遣天熊人往者之ニ所見たる其神ハ天孫降

△尚此下ハ熊野
 櫛樟日命の傳
 其然る由緒明
 かり合せ讀べし

臨章ハ天穗日命有て次ハ其子大背飯三熊之大人亦
 名武御熊之大人と見えたる大背飯ハ大真飯の義三
 熊ハ真糶ハて飯ハ由りハ神名ありハ就て思ハハ天
 熊人ニ云ハ決ク其神あり故其御父天穗日命ニ其事
 ハ推ハリ給へるふとの事有て然御名ハハ負坐るハ
 可一其子の功の父ハ及ぶ例ハ石凝姥命ハ亦名を天香山命ニ申して鏡を作給へる神あり然
 神ニ申一又鏡作社の神ニ祀へるハ同トハ延喜六年
 日本紀竟宴得天穗日命矢田部公望阿磨能衰臂俄弥
 農美飲野敷耶佐賀珥迺伊明津儒波屢濃儂葦豆胡楚
 耆鷄之有ハハ天を阿磨之訓一ありけり然ハハ阿

△其櫛樟日坐
坐るの御名
一て天德日命
御名あり
御名あり

山城王記の忠道
郡朝日神社天德
日命也天武天皇三年
琴西始奉主田加神
礼に有是なり可

△山城王記の忠道
藤原頭神坐天德日
命座以仲夏初亥大
以美為神坐之料
有る事次を以て此神
坐事次を以て此神
坐事次を以て此神
坐事次を以て此神

△三代安貞銀の貞
觀九年五月廿一日
己未詔又以因幡
正三位天德日命
神列于官社と
見えたる是なり

△天下の引近江國
馬見巖神社記馬
見國大宮同宮推
殖櫻加夜都古
神社に位御前以上
六社を住時江州
六社明神と云ふ
云々此の由なり
者なり

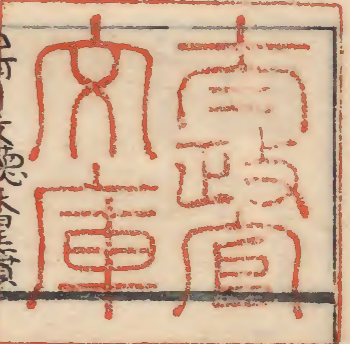
磨某之云々ハ異りて之字有れば阿米能訓べき
の諸此天德日命之次あり熊野櫛樟日命ハ同一神
小御在坐御委一考有て下二百八十九丁小註を猶因
ニ小云事有べし心を留めて考不可き者あり諸此天
穗日命を祭り社ハ神名式ハ山城國宇治郡天穗
日命神社有清和天皇實録ハ貞觀四年六月十五日
壬子山城國正六位上天穗日命神預官社同十八日乙
卯授山城國天穗日命神從五位下見えたる是なり
當郡許波多神社三社並大月次新嘗有ハ風土記ハ
天穗日命根尊なる由見えて己小註せるが如く如此
御兄弟共小御在坐因幡國高草郡天穗日命神社天
事事由有る事なり

日名鳥命神社阿太賀都健御能命神社大野見宿祢命
神社有和名抄小神名神戶有ハ此天穗日命神社の
神戶あり可一又能美郷有ハ大同類聚方小野見藥因
幡國野見宿祢麻呂乃家云云元者天穗日命之方也
と所見たり因幡志云物ハ大谷保福井村氏神華表
日天穗日命六王神社有云云六王ハ其御末の
神等をも合せ祭る由也又天日名鳥命神社を大谷
宮本社天日名鳥命別社ニ神天穗日命天日鷲命云
ハ天日鷲命ハ何の由ハ知ず又阿太賀都健御能神社
を在末常保御熊村山上日柱大明神奇石有ハ大屋
宇柱梁を割成せるが如く幾千方云云數を知らず云
ハ重働今思ふハ右の屋材の如くハ平國ハ降坐一時
小石城ふとを作給へハ料ありハ非ハ甚床

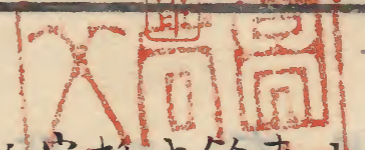
傳三十一卷百
十丁小季一
注す可

三所あり大野見宍祢命神社ハ能美郷野見保徳尾村
小在り大野見大明神之云ふ社地を丸山と云ふ云り
又出雲國能美郡天穂日命神社有り當郡ハ意宇郡よ
り支別れたるありハ風土記ハ合ざら者多在れど
モ神社ふどハ地名の異ころハ有るめ然轉替る物ハ
非るが為小此を考る小神名式野城神社同社坐大穴
持神社同社坐大穴持御子神社之有て三社あり然る
小風土記ハ野城社又野城社之ニ社有ハ式ノ野城
神社同社坐大穴持神社ハ合べけれども風土記ハ
モ以上冊八所並在神祇官之見えたりハ今一神ハ決め
て其中ハ在べく思定めて式文ハ比校支麻知社

之云ふ一社行れども必其同社坐大穴持御子神社ハ
當る可けれバ右ノ能美郡天穂日命神社ハ風土記ノ
此ハ不在神祇官之云わし社之式ハ謂ゆる式外ハ
わし者あり故考る小風土記ハ壹佰捌拾肆所在神
祇官
有る小神賀詞ハ百ハ十六社坐皇神等之有同記ハ神
門郡ハ以上廿五所並在神祇官之有を式ハ神門郡廿
七座並之見えたり差ハ依れども其惣數あり然る
小出雲國一百八十七座大ニ座ハ百
五ハ十五座之有ハ右ノ神門
郡ありニ座之此能美郡天穂日命一座之を合せたり
者ハ之過不及ノ差有る事無し然れバ此神社ハ何れ



録仁壽元年九月
乙酉出雲國天穗日
命神授從五位下
有次天安元年
六月丙寅朔甲申
在出雲國從五位下
天穗日命神授從
社之見えたる此時
より官帳に載れ
たる者なり



より出たるを考ふ小意宇郡小以上一十九所並
不在神祇官之有る中なる支布佐社を風土記扱小屋
代郷言佐村天津大明神天穗日命也式能義郡天穗日
命社是也之云々實不然多可一又二社支布佐社有る
容大明神令云國津大明神大己貴命也之云々此ハ今
式外あり儲風土記ハ意宇郡小母理屋代摘繪安
来山國飯梨舎人大草山代拜志宗道の十一郷之外小
餘戸里又野城黒田宗道の驛家之出雲賀茂忌部の神
戸之合せて十八郷を和名扱不能義郡小舎代安来
摘繪屋代山國母理野城賀茂神戸の十郷有る意
宇郡小宗道來待拜志神戸忌部山代大草筑陽の八郷
之別れハ右の如く二郡之成れハ社數の僅小一社
ありハ心得ぬ事あり然れバ式文ハ意宇郡四十八
座之有れども其中ハ能義郡小屬るハ有べけれ
ト未別たりずして其任小指置れ唯其時小加ハれ
る天穗日命神社を殊更小記されたるの事之所

